

正誤表

対象	誤	正	備考
特記仕様書	第1章 総則 「1.受注者相互の協力」の記載内容の誤り	第1章 総則 「1.受注者相互の協力」の記載内容の訂正 特記仕様書(訂正)参照	訂正
特記仕様書	第3章 工事施工条件 「3-5工事用道路 (1)工事用道路の通行台数」の記載内容の誤り	第3章 工事施工条件 「3-5工事用道路 (1)工事用道路の通行台数」の記載内容の訂正 特記仕様書(訂正)参照	訂正
特記仕様書	第3章 工事施工条件 「3-1建設発生土 (2)工事用道路の指定」の記載内容の誤り	第3章 工事施工条件 「3-1建設発生土 (2)工事用道路の指定」の記載内容の訂正 特記仕様書(訂正)参照	訂正
設計図面(参考)②	技術協力業務説明図(参考図) 256/268 「平面図」の記載内容の誤り	技術協力業務説明図(参考図) 256/268 「平面図」の記載内容の訂正 設計図面(参考)②(訂正)参照	訂正
設計図面(参考)②	技術協力業務説明図(参考図) 257/268 「平面図」の記載内容の誤り	技術協力業務説明図(参考図) 257/268 「平面図」の記載内容の訂正 設計図面(参考)②(訂正)参照	訂正

正

釜利谷ジャンクション工事	H28.11.22～H31.11.6	(株)熊谷組	当社	
桂台トンネル工事	H27.4.23～H32.11.21	大成建設(株)・(株)フジタ・(株)鎌高組JV	当社	
公田笠間トンネル工事	H28.4.6～H32.11.10	鹿島建設・株竹中土木・佐藤工業JV	当社	
釜利谷庄戸トンネル施工計画検討	H30.8.28～H31.4.24	中央復建コンサルタンツ㈱	当社	設計協力協定に基づく設計者 (以下、設計者)

1-5 計画工程表

1-5-1 計画工程表の記載事項

受注者は、共通仕様書1-14-1「作業計画書の提出」に示す作業計画書の計画工程表の作成にあたっては、次の項目ごとに作業完了時期を明示し提出するものとする。

受注者は、完了時期の明示にあたって、発注者または監督員が行う協議や共通仕様書1-22に規定する「打合せ」の実施時期についても十分検討し、計画工程表に記載するものとする。また、共通仕様書1-9-4「照査計画の作成」に定める照査計画を盛り込むこととする。

なお、作業単位の設定は下表を標準とするが、計画工程表の提出にあたって監督員と受注者とで協議のうえ決定するものとする。

種別	工種	作業単位	備考
技術協力業務	現地踏査	—	
〃	施工検討	周辺環境検討	
〃	〃	施工計画検討	
〃	業務打合せ	—	

誤

釜利谷ジャンクション工事	H28.11.22～H31.11.6	(株)熊谷組	当社	
公田笠間トンネル工事	H28.4.6～H32.11.10	鹿島建設・株竹中土木・佐藤工業JV	当社	
釜利谷庄戸トンネル施工計画検討	H30.8.28～H31.4.24	中央復建コンサルタンツ㈱	当社	設計協力協定に基づく設計者 (以下、設計者)

1-5 計画工程表

1-5-1 計画工程表の記載事項

受注者は、共通仕様書1-14-1「作業計画書の提出」に示す作業計画書の計画工程表の作成にあたっては、次の項目ごとに作業完了時期を明示し提出するものとする。

受注者は、完了時期の明示にあたって、発注者または監督員が行う協議や共通仕様書1-22に規定する「打合せ」の実施時期についても十分検討し、計画工程表に記載するものとする。また、共通仕様書1-9-4「照査計画の作成」に定める照査計画を盛り込むこととする。

なお、作業単位の設定は下表を標準とするが、計画工程表の提出にあたって監督員と受注者とで協議のうえ決定するものとする。

種別	工種	作業単位	備考
技術協力業務	現地踏査	—	
〃	施工検討	周辺環境検討	
〃	〃	施工計画検討	
〃	業務打合せ	—	

正

3-4 関連工事

(1) 関連工事

関連する工事は、次のとおりとする。

番号	工事名	主な関連事項	予定期	施工主体	受注者名
1	横浜環状南線 桂台トンネル工事	工事区間の重複 工事用道路の共同使用	平成20年04月03日 ～平成22年11月21日	東日本高速道路株 横浜工事事務所	大成建設・東洋・熊谷組 特定建設工事共同企業体
2	横浜環状南線 公田差闊トンネル工事	工事用道路の共同使用	平成20年04月03日 ～平成22年11月10日	東日本高速道路株 横浜工事事務所	大成建設・新日本・日揮建 特定建設工事共同企業体

工事着手可能時期

関連工事と重複した工事区間の工事着手可能時期は、次のとおりとする。

施工箇所	施工内容	工事着手可能時期	備考
STA.6+00 ～ STA.11+35付近	庄戸トンネル(下り線) 分合流区間 ・トンネル工事 低土被り区間 ・トンネル工事 ・函体工事	金利谷ジャンクション～環状4号線に渡るトンネル内土運搬経路を下り線側から上り線側へ確保したのち。 [契約締結後、別途監督員より通知する。]	

3-5 工事用道路

(1) 工事用道路の通行台数

工事用道路の通行台数の上限は、関連工事の通行台数(大型工事用車両)を合算し調整して、次の通行台数(断面交通量)を上限とする。なお、コンクリートの打設作業は優先して調整を行う。

区間	通行台数の上限	関連工事の番号
県道原宿六浦線 神戸橋交差点～朝比奈IC	550台/日	1,2
県道原宿六浦線 神戸橋交差点～神奈中車庫前	300台/日	1,2
横浜環状南線(金利谷JCT側)	1,800台/日	1,2
横浜横須賀道路	2,600台/日	1

3-6 周辺住環境への配慮

(1) 用地境界における管理基準

工事の施工にあたっては、建築基礎構造設計指針(平成13年10月、日本建築学会)表5.3.6「構造別の総沈下量の限界値の例」の木造布基礎形式の標準値の沈下量及び傾斜角を管理基準値として検討を行うものとする。

3-4 関連工事

(1) 関連工事

関連する工事は、次のとおりとする。

番号	工事名	主な関連事項	予定期	施工主体	受注者名
1	横浜環状南線 桂台トンネル工事	工事区間の重複 工事用道路の共同使用	平成20年04月03日 ～平成22年11月21日	東日本高速道路株 横浜工事事務所	大成建設・東洋・熊谷組 特定建設工事共同企業体
2	横浜環状南線 公田差闊トンネル工事	工事用道路の共同使用	平成20年04月03日 ～平成22年11月10日	東日本高速道路株 横浜工事事務所	大成建設・新日本・日揮建 特定建設工事共同企業体

工事着手可能時期

関連工事と重複した工事区間の工事着手可能時期は、次のとおりとする。

施工箇所	施工内容	工事着手可能時期	備考
STA.6+00 ～ STA.11+35付近	庄戸トンネル(下り線) 分合流区間 ・トンネル工事 低土被り区間 ・トンネル工事 ・函体工事	金利谷ジャンクション～環状4号線に渡るトンネル内土運搬経路を下り線側から上り線側へ確保したのち。 [契約締結後、別途監督員より通知する。]	

3-5 工事用道路

(1) 工事用道路の通行台数

工事用道路の通行台数の上限は、関連工事の通行台数(大型工事用車両)を合算し調整して、次の通行台数(断面交通量)を上限とする。なお、コンクリートの打設作業は優先して調整を行う。

区間	通行台数の上限	関連工事の番号
県道原宿六浦線 神戸橋交差点～朝比奈IC	550台/日	1,2,3
県道原宿六浦線 神戸橋交差点～神奈中車庫前	300台/日	1,2,3
横浜環状南線(金利谷JCT側)	1,800台/日	1,2
横浜横須賀道路	2,600台/日	1,3,4

3-6 周辺住環境への配慮

(1) 用地境界における管理基準

工事の施工にあたっては、建築基礎構造設計指針(平成13年10月、日本建築学会)表5.3.6「構造別の総沈下量の限界値の例」の木造布基礎形式の標準値の沈下量及び傾斜角を管理基準値として検討を行うものとする。

誤

正

10	市道長浜 13 号	7.0	0.3	舗装	無償	—	—	既設復路
11	市道幸浦 25 号	10.0	0.6	舗装	無償	—	—	既設復路
12	市道長浜 53 号	6.0	0.4	舗装	無償	—	—	既設復路
13	国道 357 号	10.0	0.7	舗装	無償	—	—	既設復路
9	市道長浜 12 号	7.0	0.1	舗装	無償	—	—	既設復路
8	市道長浜 9 号線	7.0	0.3	舗装	無償	—	—	既設復路
2	横浜横須賀道路 (並木 IC～工事用出入口)	7.0	3.9	舗装	無償	—	—	既設復路
1	釜利谷 JCT 内工事用道路	6.0	0.3	舗装	無償	—	—	既設復路

なお、この場合の有料道路の通行区間は、並木 IC～衣笠 IC（往復）、三浦縦貫道路（往復）である。

3-2 関連施設及び関係機関

関連施設及び関係機関は、次のとおりである。

関連施設	関係機関	移設等実施者	摘要
6号緑地	横浜市栄土木事務所	工事受注者	設計図面のとおり 平面図 埋設物位置図(参考図)
庄戸第4公園	横浜市栄土木事務所	工事受注者	
市道	横浜市栄土木事務所	工事受注者	
架空線	電力線 東京電力(株) 通信線 KDDI(株) 通信線 (株)ジェイコム 通信線 東日本電信電話(株)	企業者	工事の施工に合わせ、関係機関と協議し移設等を行う。
地下埋設物	上水道 横浜市水道局 下水道 (雨水・污水) 横浜市環境創造局 通信線(光通信) 東日本電信電話(株) ガス管 東京ガス(株)	企業者 工事受注者 企業者	

誤

10	市道長浜 13 号	7.0	0.3	舗装	無償	—	—	既設復路
11	市道幸浦 25 号	10.0	0.6	舗装	無償	—	—	既設復路
12	市道長浜 53 号	6.0	0.4	舗装	無償	—	—	既設復路
13	国道 357 号	10.0	0.7	舗装	無償	—	—	既設復路
9	市道長浜 12 号	7.0	0.1	舗装	無償	—	—	既設復路
10	市道長浜 9 号線	7.0	0.3	舗装	無償	—	—	既設復路
2	横浜横須賀道路 (並木 IC～工事用出入口)	7.0	3.9	舗装	無償	—	—	既設復路
1	釜利谷 JCT 内工事用道路	6.0	0.3	舗装	無償	—	—	既設復路

なお、この場合の有料道路の通行区間は、並木 IC～衣笠 IC（往復）、三浦縦貫道路（往復）である。

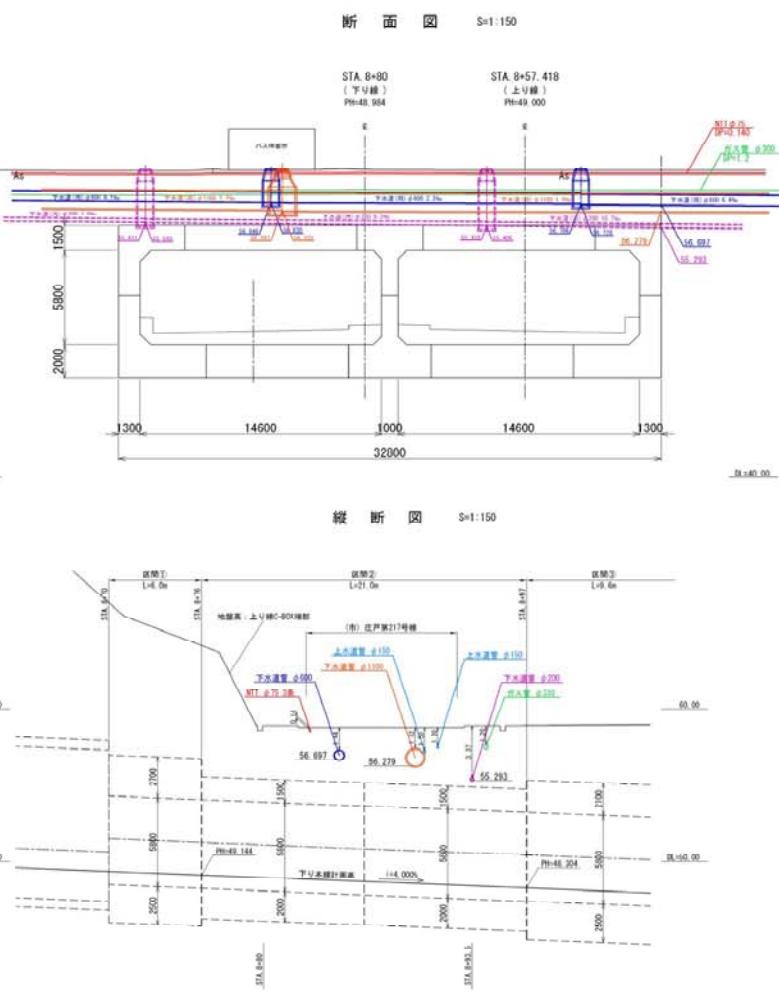
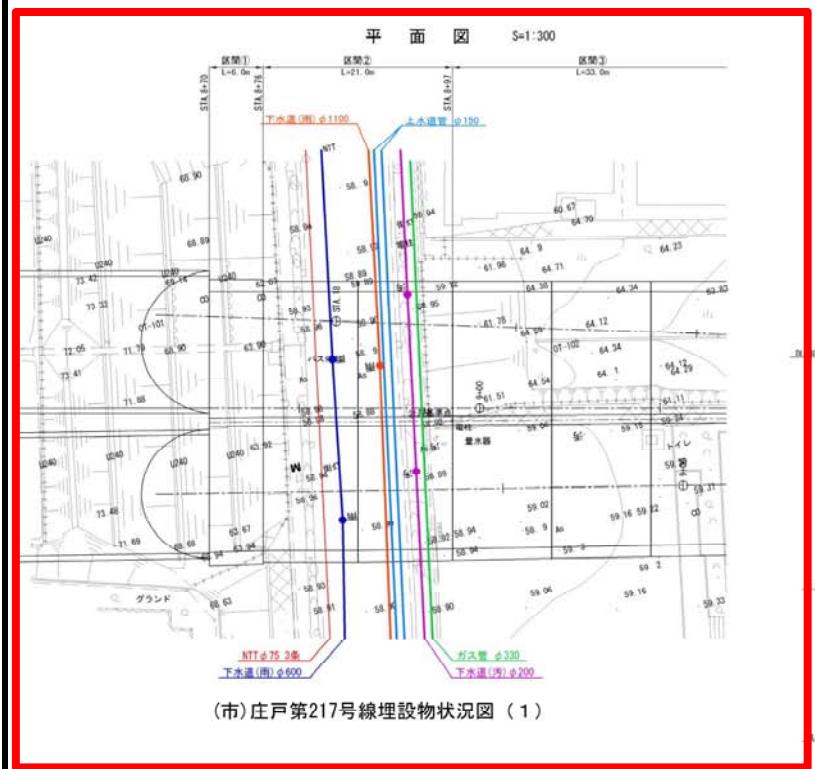
3-2 関連施設及び関係機関

関連施設及び関係機関は、次のとおりである。

関連施設	関係機関	移設等実施者	摘要
6号緑地	横浜市栄土木事務所	工事受注者	設計図面のとおり 平面図 埋設物位置図(参考図)
庄戸第4公園	横浜市栄土木事務所	工事受注者	
市道	横浜市栄土木事務所	工事受注者	
架空線	電力線 東京電力(株) 通信線 KDDI(株) 通信線 (株)ジェイコム 通信線 東日本電信電話(株)	企業者	工事の施工に合わせ、関係機関と協議し移設等を行う。
地下埋設物	上水道 横浜市水道局 下水道 (雨水・污水) 横浜市環境創造局 通信線(光通信) 東日本電信電話(株) ガス管 東京ガス(株)	企業者 工事受注者 企業者	

正

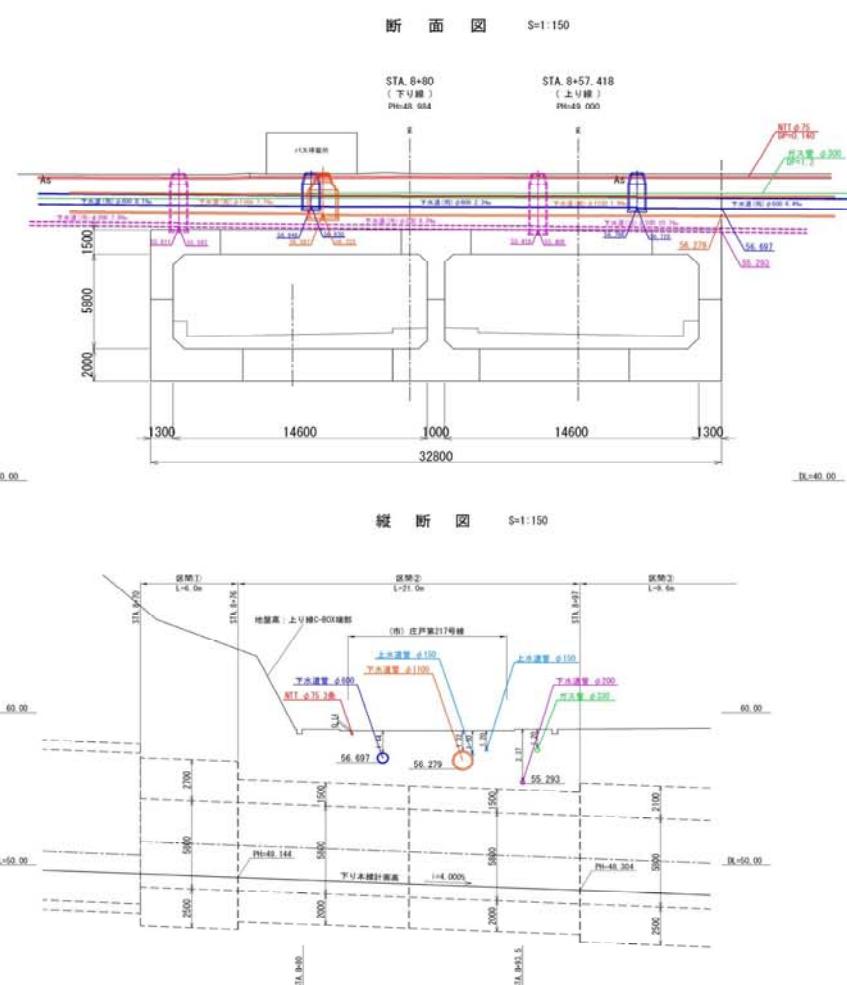
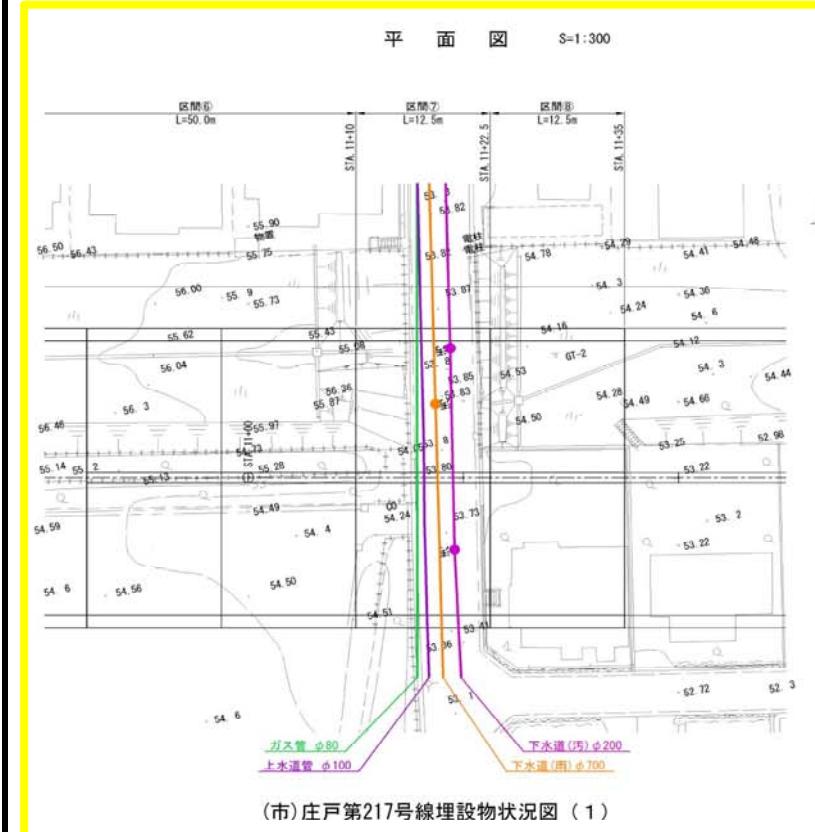
地下埋設物位置図（市道217号交差部）



※ 埋設管路の高さは最も低い敷設高さを示しており、上り線C-BOX端部での高さを示す。

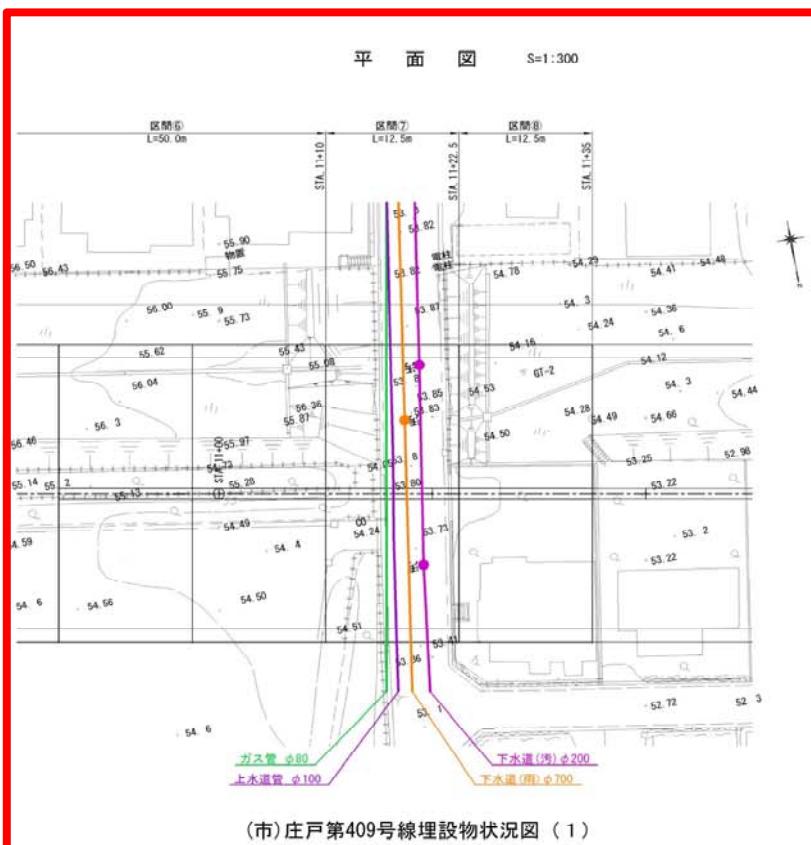
逆

地下埋設物位置図（市道217号交差部）

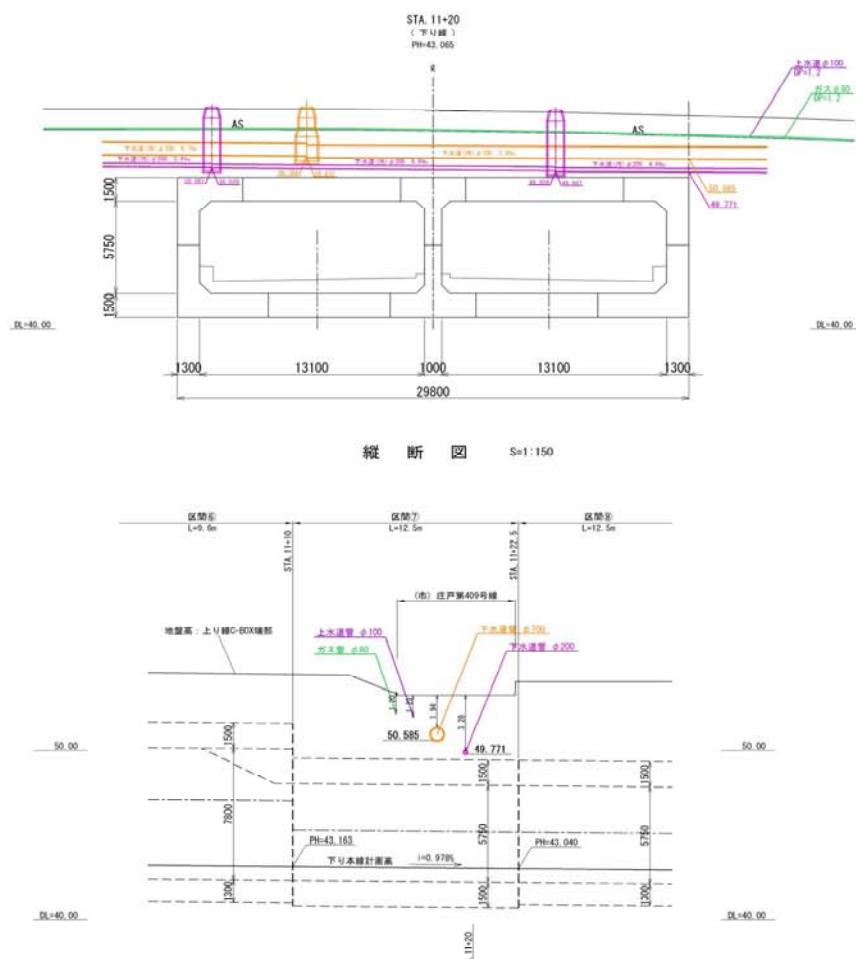


※ 埋設管路の高さは最も低い敷設高さを示しており、上り線C-BOX端部での高さを示す。

地下埋設物位置図（市道409号交差部）



断面图 S=1:150

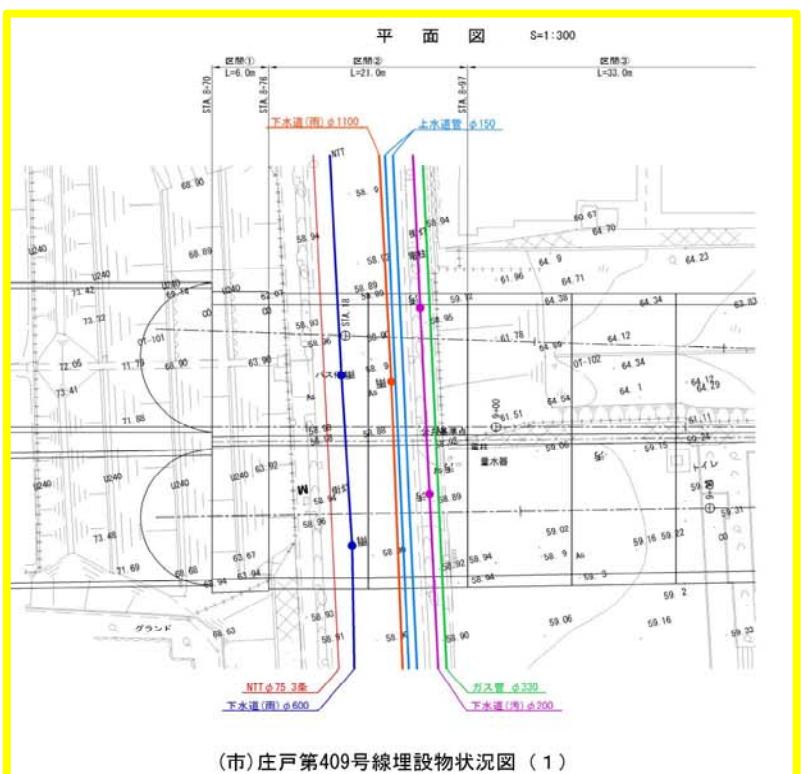


※ 埋設管路の高さは最も低い敷設高さを示しており、上り線C-B0X端部での高さを示す。

(市)庄戸第409号線埋設物状況図 (2)

地下埋設物位置図（市道409号交差部）

断面図 S=1:150



縦断図 S=1:150

(本) 広三第400号編撰設物状況圖 (6)